

2019年度しあわせ研究

拡張するむさしの IPE

研究員 山本摂子
(むさしの IPE 代表)



「むさしの IPE」は、しあわせ研究員である社会福祉学科、薬学科、言語聴覚養成コース、看護学科の教員計8名が学科を横断して協働・連携し、学生が学生時代に専門職連携を学ぶことを目的に、2016年から8回のイベントを開催しています。

今回は、令和元年度に建学科目「しあわせを考える」において『立場の違う人の体験からしあわせを考える』をテーマに医療福祉系以外の、グローバルコミュニケーション、日本語コミュニケーション、グローバルビジネス、経済、経営、会計ガバナンス、法律、政治、日本文学文化、人間科学科、環境システム、数理工、環境デザイン学科の2~4年生69名を対象に、武蔵野キャンパス、有明キャンパスで2コマずつ実施した授業をご紹介します。

授業内容は、1.講義：本学医療福祉系学科で取得可能な資格を中心にした医療福祉専門職の紹介、2.体験：立場の違う人(看護師・言語聴覚士・薬剤師)の体験、3.意見交換：テーマ「医療・福祉を学び提供する人及び受ける人に自分たちはどのように関わるこ

とができるのか」、4.レポート：テーマ「立場の違う人の体験からしあわせを考えるー自分とは立場の違う人への関わりと所属学科との学びとの関係から」でした。

授業の様子やレポートから学生たちが得た「学び」を前野隆司先生が提唱する“しあわせの4因子”の視点から捉えると、医療専門職を“やってみたら”[新鮮]で「他者に関心を持つことが重要」と気づき、「専門職連携を具体的にイメージできた」ことで互いへの“ありがとう”という感謝の気持ち生まれ、自学科での“自分らしい”学びと「他者の支援」を関連づけて考え、“なんとかなる”と立場が違う人に「コミュニケーションと関心を持ち関わり尊重する」ことで、さらに“やってみよう”というサイクルが生じることが窺えました。

つまり、本授業は非医療福祉系学科の学生であっても、医療福祉の発展やしあわせを考える機会となり、総合大学における IPE として、学科の違いを乗り越える拡張的意義があると考えられました。

さらに、昨年看護学科教員2名が、令和2年度には社会福祉学科教員1名が加わり、学科を超えた教員の連携も拡張しております。学生のしあわせのみならず、教員のしあわせにもつながる「むさしの IPE」の活動に今後もご注目ください。